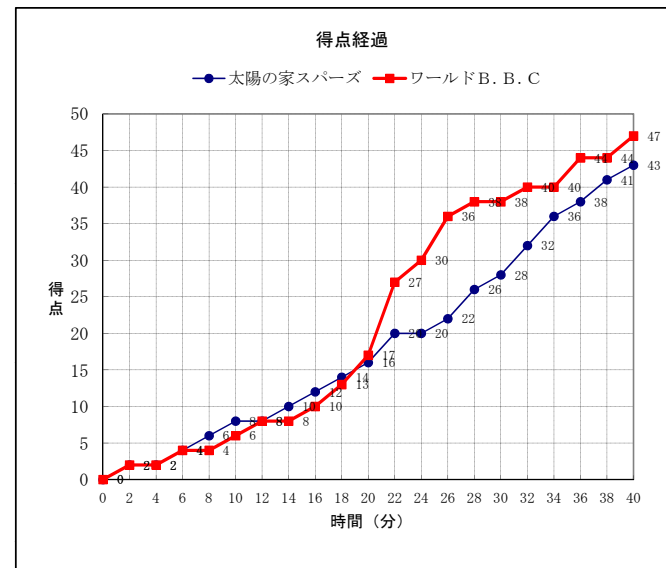


「東日本大震災」被災地復興支援 内閣総理大臣杯争奪  
第40回記念日本車椅子バスケットボール選手権大会  
個人トータル表

1回戦										2012年5月2日 14時50分開始									
太陽の家スパーズ (九州) 43										東京体育館 A - 1									
										◎									
										ワールドB. B. C (東海北陸) 47									
										( 8 1クォーター 6 )									
										( 8 2クォーター 11 )									
										( 12 3クォーター 21 )									
										( 15 4クォーター 9 )									
番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則		
* 5	福地 広和 (3.0)	4	0	2	0	-	-	3	4	吉原 大貴 (2.5)	0	0	0	0	-	-	0		
* 6	矢田 成昭 (2.0)	11	0	5	1	-	-	3	* 5	加藤 和徳 (3.0)	15	0	7	1	-	-	1		
* 8	宮本 晶 (4.0)	4	0	1	2	-	-	2	* 6	神谷 泰範 (2.0)	2	0	1	0	-	-	3		
10	檜崎 秀政 (2.5)	0	0	0	0	-	-	0	7	竹内 厚志 (3.0)	2	0	1	0	-	-	2		
* 12	田中 栄太郎 (1.0)	4	0	2	0	-	-	1	8	長谷川 康之 (2.0)	0	0	0	0	-	-	0		
* 13	本田 昌士 (4.0)	20	0	10	0	-	-	4	* 9	竹中 久雄 (2.0)	9	0	4	1	-	-	1		
14	高橋 幸久 (1.0)	0	0	0	0	-	-	1	10	加藤 直生 (1.5)	0	0	0	0	-	-	3		
									11	早稲田 正浩 (2.0)	1	0	0	1	-	-	0		
									* 12	白丸 文明 (3.5)	18	0	9	0	-	-	1		
									* 14	杉浦 寿信 (1.0)	0	0	0	0	-	-	0		
									15	大島 朋彦 (4.0)	-	-	-	-	-	-	-		
									16	辰巳 晃一 (3.5)	0	0	0	0	-	-	1		
									18	安藤 洋幸 (1.0)	-	-	-	-	-	-	-		
									19	児玉 慎也 (2.0)	-	-	-	-	-	-	-		
HC	河野 有信								HC	杉浦 寿信									
AC	矢田 成昭								AC	小川 智樹									
マネージャー	目崎 和美								マネージャー	寺島 悦子									
									マネージャー	前田 麻美									
									マネージャー	小崎 祐美子									
合計		43	0	20	3	0	0	14	合計		47	0	22	3	0	0	12		
主審： 平田 貴浩 副審： 福井 公平 副審： 立田 裕志																			



〔戦評〕

【1Q】太陽の家スパーズが#5, #6, #8, #12, #13、ワールドB. B. Cが#5, #6, #9, #12, 14のオーダーとなり、スパーズのスタートとなる。開始すぐに#13がシュートを入れるも、すぐワールドの#9が同点にする。両チーム高めに守るディフェンスで、お互い5分間点が入らない。そこから点が動いたのは、スパーズのフリースローで2本とも決め、その後すぐワールドも追いつくが、スパーズのシュート確立が良く、スパーズの2点リードで終了。

【2Q】#12のアウトサイドにより、同点にするも、パスミスや速攻が上手くいかず、どちらも試合の流れを自分のチームに引き寄せられないが、スパーズの#6が中心となり、点を入れるがワールドも#12を軸として点数を決め、互いに譲らずシーソーゲームとなりつつあったが、ワールドの連続得点で14-15で逆転で終了

【3Q】お互いのディフェンスがマンツーマンになりワールドのシュート力が上がり試合の流れを掴み6分で14点差まで広げる。太陽の#13, #6がランニングシュートやインサイドで差を詰めるがワールドの巧みな車イス操作によりパスをつなげる事が出来ず、#13の高さを活かしたプレーが出来なく、28-38で終了。

【4Q】開始早々ワールドのマンツーマンがより厳しくなり、スパーズはフロントコートまでボールを運ぶのが難しくなり8秒をとられる場面があった。それを機にワールドは、#12をはじめセンター陣のインサイドでオフェンスをするが、シュートの決定力に欠け、なかなか差をひろげることが出来ないままスパーズの#13がリバウンドを制し#6, #8のランニングシュートで着実に点差を詰め始める。ワールドのペースが徐々に崩れ始め、ファールやパスミスなどチーム全体の焦りが出てきた。残り2分の時点で41-44と3点差まで詰め寄るが、ワールドはスパーズのファールによりフリースロー1本を確実に決め、4点差でワールドの勝利となる。

(担当：内木/間下/大森)